

MERRY CHRISTMAS



ウガンダ、パナナの産物

わかちあいプロジェクト

NEWS No 18

2002 NOVEMBER



ウガンダ産バナナとパナマ産バナナ

わかちあう10年に感謝!

松木 傑

牧師 わかちあいプロジェクト代表

1992年2月、3週間にわたりアメリカ、ドイツ、スイスと教会関係の援助団体とフェアトレード団体を訪問し、見聞を広めたいと出会う幸いを得ました。親切にプログラムをアレンジして下さる方々に、いまでも感謝しています。

その出会いの結果、同じ年の8月、ウバ紅茶がスリランカから最初に輸入され、教会の全国総会でみなさんに紹介いたしました。また、この旅で、まだ、準備段階であったトランスフェアのフェアトレード運動について知りました。後に事務局の責任者となったクンツさんが、これはまだ内密だけだと言って、おもむろに引き出しからトランスフェアのロゴのデザインを取り出して、これをコーヒのパッケージに付けるのだ、と彼が言った時の、私の、「一体、これなに?」とキョトンとした感覚が忘れられません。

難民キャンプやカンボジアでのワークキャンプには多くの青年が参加してくださり、困難のなかに精一杯、生きようとする人たちや、貧しくても明るく生きる人たちとの出会いの場を提供することができました。

聖書のなかに、少年が差し出した、パン五つと魚二匹で、五千人が満腹になったという奇跡の物語があります。わかちあいプロジェクトの考えは、これに示唆を受けています。現在の世界の争いや貧困は決して食べ物不足していることが原因ではありません。この少年のように、人々を信頼して、「わかちあう」という精神、世界の苦しみを、それはあなたの怠慢のせいだと、私に関係ないことのように扱うのでなく、それもまた、私たちの問題であり、責任として受けとめるときに、確かに奇跡は起きるのです。

皆様のお支えを感謝いたします。これからのさまざまな形で、困難の中にいる人々を励ましてゆきたいと思ひます。

コーヒー紅茶プロジェクト

2 フェアトレードはコーヒー生産者を支えています!



生産者の代表がデモ行進、ドイツにて



コーヒーチェリーを収穫する スマトラにて



コーヒーの収益金で建設されたグループの事務所

■コーヒー価格の暴落続く コーヒー生産者からのSOS!

これはメキシコとホンジュラスから届いた2週の手紙です。現場からの生の声をお聞き下さい。

「…小規模な農家は今、必死で援助を求めています。つい最近コーヒー栽培者が私に語ったところによると、彼らはブローカーを通じて日本にコーヒーを1ポンドにつき47セント(約454gを59円)で売ったそうです。まさに泥棒行いです。世界的コーヒー市場の低落によって彼らの収入は空前の低さに達しています。多くの栽培者は自分の農地を離れて、米国で仕事を見つめようとしています。これは非常に非常に貧しい状態にある家族にさらに苦難を与えることになるのです。…」(生産者の窮状を訴え、フェアトレードに参加したいというメキシコの銀行員)

「私は小規模なコーヒー栽培者で作っている組合のマネージャーです。…(中略) 国際市場においてコーヒーの価格は非常に低下し、私たちはたいへん困難な社会的・経済的状況に陥つて援助を必要としています。わが国の生産者は今まで以上に貧しく、食べ物も欠乏し、銀行に借金を返済することもできません。もし何らかの援助をうることができなければ、来年にはわれわれ生産者の80%が低当としてその農地を失うことになるでしょう。わが国の栽培者を代表して私はSOSを発信し、我々のコーヒーの40%をフェアトレードの条件で買ってくださいようお願いします。…」(南米ホンジュラスの生産者組合の代表者より)

■スマトラ・マンデリンコーヒー

ルマタ・コーヒー生産者グループは、22家族から構成され、北スマトラのリントン・ニフタ地域にあります。歩いてお会いに行ける近隣の農家の人たちがつづられています。

昨年、5月の訪問でそのコーヒーの良さを知って、今年は、コーヒー会社の協力もあって11トンのコーヒーを輸入しました。メンバーの収穫高に相当します。昨年は、虫食いの豆も選別しないで、使い古したバグに入れて輸出されましたが、今回は、国際基準にあうように、選別し袋詰めされて日本に届きました。農民の人たちは、コーヒーの果肉を取除く機械は自分で所有していますが、その後、乾燥させてから、もみ殻状の外皮を剥除くことができます。中国資本の会社に持ち込むことはありません。すべての行程に自らで係わって行えるように支援したいと語っています。

自分たちがつくったコーヒーがどこに売られているのかも知らないのが現状です。誰か買ってくれたことがありますか、と尋ねますと、アメリカ人とドイツ人が何回か尋ねて来たとのことでした。インドネシアで廃業する農民のためコーヒーづくりに励む生産者グループです。



ドリップ式コーヒーのデモンストレーション。カップ半分も行き渡りませんでしたが、皆神妙な顔をして飲んでいました。聖餐的な雰囲気でした。

■スターバックスコーヒー ジャパン ついにフェアトレードコーヒー 発売開始!



JAPAN LEAD

1993年最初に、わかちあいプロジェクトが、トランスフェアロゴ付きのフェアトレードコーヒーの販売をはじめた10年になります。

10年たってやっと最近、コーヒー会社からトランスフェアへの問い合わせが増えて来ています。スターバックスの影響もあると思われますが、南北の経済格差が広がる中で、消費者が具体的に取り組める途上国生産者支援であることから、必ず受け入れられると確信していました。まだ、この運動に代わるものは世界にはないのです。

この数年に及ぶコーヒー価格の低迷により、フェアトレードの重要性が高まってきています。現在のマーケットは、生豆1キログラム、120円-140円ですが、フェアトレードの基準は、300円です。

単純に比較すると倍以上ですが、私たち消費者にとって、コーヒー一杯(ロスドコーヒー10グラム)当たりですと、僅かに2.4円ですが、1.2円高く払うに過ぎません。しかし、これが生産者には死活問題なのです。

これだけ価格が低迷すると、これは単に需要供給のマーケットの問題ではなく、倫理的、社会正義の問題です。